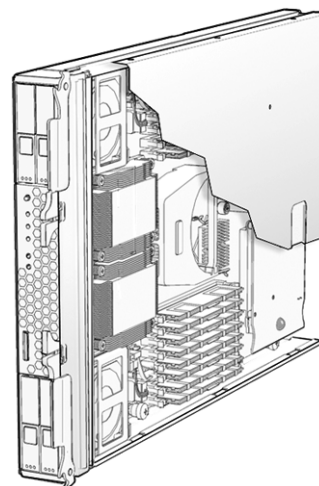


Sun Blade X6250 サーバーモジュール 設置マニュアル



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-2408-10
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布物には、サードパーティによる情報が含まれることがあります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、Sun Blade は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays sous licence exclusive de X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Blade sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 概要 1

本書で使用している用語 1

設置の概要 2

電源投入と電源切断（通常の方法） 3

▼ スタンバイ電源を供給する 3

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入する 3

▼ 主電源をオフにする 5

プラットフォームオペレーティング
システムおよびドライバソフトウェア
のセットアップ 5

RAID の設定 6

2. サーバーモジュールの設置および設定 7

サーバーモジュールの挿入 7

▼ サーバーモジュールを挿入する 7

Embedded LOM へのアクセスと設定 9

Embedded LOM のネットワーク設定の表示 10

サーバーモジュールの Embedded LOM への接続	12
Embedded LOM の WebGUI への接続	13
Embedded LOM の CLI への接続	14
Embedded LOM のネットワーク設定 (省略可)	14
システムの電源投入およびプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定	15
▼ サーバーモジュールの電源を入れてプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムを設定する	16
A. インストールのためのワークシート	19
索引	23

はじめに

本書『Sun Blade X6250 サーバーモジュール設置マニュアル』では、サーバーのシャーシへの設置、サービスプロセッサ管理者アカウントへの接続、およびプリインストールされた Solaris™ オペレーティングシステムの設定手順を説明します。

UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX® コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- <http://docs.sun.com> に掲載されている Solaris オペレーティングシステムのドキュメント

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

ドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

Sun 関連ドキュメント、サポート、 トレーニング

Sun の部門	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

製品のアップデート

ダウンロードできる製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

該当するハードウェアドライバのセクションを探し、「X64 Servers & Workstations (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。Sun Blade X6250 サーバーモジュールのサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6250 サーバーモジュール設置マニュアル』、部品番号 820-2408-10

概要

この章では、次の項目について説明します。

- 「本書で正在している用語」(1 ページ)
- 「電源投入と電源切断 (通常の方法)」(3 ページ)
- 「プラットフォームオペレーティング システムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」(5 ページ)
- 「RAID の設定」(6 ページ)

本書で正在している用語

本書では、次の用語の使い方に注意してください。

- 「サーバーモジュール」は、Sun Blade X6250 サーバーのハードウェアを指します。
- 「シャーシ」は、Sun Blade 6000 モジュラーシステムを指します。
- サーバーモジュールには *Embedded Lights Out Manager (Embedded LOM)* が含まれています。これは、マザーボードに埋め込まれたサービスプロセッサ(SP) 上で実行される IPMI 2.0 対応のソフトウェアです。

設置の概要

次の節では、プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムを使用して所定の方法で設置する手順の概要を説明します。実際の手順は第 2 章で説明します。

まずサーバーモジュールを開梱します。

1. サーバーモジュールをシャーシに挿入します。
 - 挿入すると、サーバーモジュールがスタンバイモードで起動します。
 - 「サーバーモジュールの挿入」(7 ページ) を参照してください。
2. Embedded LOM (サービスプロセッサ) にアクセスします。
 - 終了すると、Ethernet から Embedded LOM にアクセスできます。ここで、Embedded LOM の IP アドレスなどのネットワーク設定を行うこともできます。
 - 「Embedded LOM へのアクセスと設定」(9 ページ) を参照してください。

注 – システムコンソールが表示されるように Embedded LOM を設定したあとで、プリインストールされた Solaris オペレーティングシステム以外のオペレーティングシステムをインストールする場合は、該当するオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

『Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』(820-2413) または 『Sun Blade X6250 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2413) を参照してください。

3. システムコンソールが表示されるように Embedded LOM を設定し、次にシステムの電源を入れ、自動インストールプログラムからの問い合わせに対して情報を入力します。
 - システムコンソールにブートアップメッセージが表示されます。

ブートアップ中に、自動インストールプログラムにより一連の問い合わせが表示されます。

プリインストールされた Solaris 10 OS を自動インストールプログラムにより設定するために必要な情報を付録 A のワークシートを使用して収集します。

自動インストールプログラムからの最後の問い合わせに回答すると、警告メッセージが表示されてシステムがリブートされます。これでインストールは完了です。
 - 「システムの電源投入およびプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定」(15 ページ) を参照してください。

電源投入と電源切断（通常の方法）

このセクションでは、サービスプロセッサを動作させるためにサーバーモジュールにスタンバイ電源を供給する方法を説明します。サーバーモジュールの電源の投入方法と切断方法も説明します。

注 – サーバーモジュールの電源は、Embedded LOM を使用してリモートで投入および切断することもできます。電源投入の手順については、「[システムの電源投入およびブリーインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定](#)」(15 ページ) を参照してください。詳細は『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』(820-1253) を参照してください。

▼ スタンバイ電源を供給する

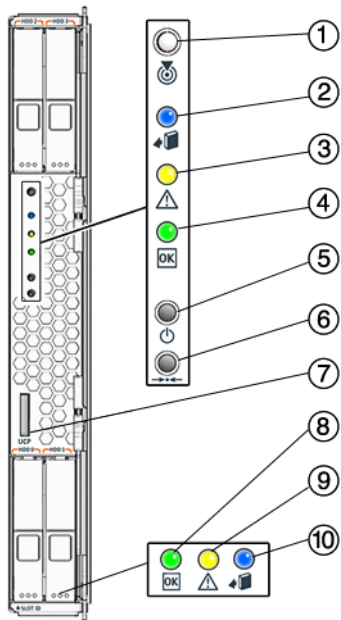
スタンバイ電源を供給すると、サービスプロセッサの電源が入りますが、その他のサブシステムには電源が入りません。

シャーシに電源を入れると、スタンバイ電源が自動的にサーバーモジュールに供給されます。特別な操作は必要ありません。

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入する

1. 電源を入れたシャーシにサーバーモジュールを挿入します。
サーバーモジュールは自動的にスタンバイ電源モードで起動します。
スタンバイ電源モードでは、前面パネルの緑の OK LED が点滅し、青の取り外し OK LED は点灯したままです。図 1-1 を参照してください。
2. サーバーの前面パネルにあるへこんだ電源ボタンを、スタイラスなどの非導電性の先のとがったもので押して離します。
主電源がサーバー全体に供給されると、電源ボタンの上にある緑の OK LED が点灯し続けます。

図 1-1 サーバモジュールの前面パネル



説明

-
- 1 白の LED - 位置特定
 - 2 青の LED - 取り外し可能
 - 3 黄色の LED - サービスが必要
 - 4 緑の LED - OK
 - 5 電源オンボタン/スタンバイ
 - 6 サービス用
 - 7 UCP (ユニバーサルコネクタポート) - ドングルケーブル用
 - 8 緑の LED - ディスク OK
 - 9 黄色の LED - ディスクサービスが必要
 - 10 青の LED - ディスクの取り外し可能
-

▼ 主電源をオフにする

サーバーの電源をオフにするには、次の2つの方法のいずれかを使用します。

- 適切な順序でのシャットダウン。前面パネルにある電源ボタンを、スタイラスなどの非導電性の先のとがったもので押して離します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
- 緊急シャットダウン。電源ボタンを4秒間押し続けると、主電源がオフになりスタンバイ電源モードになります。

主電源がオフになると、前面パネルにある電源/OK LED が点滅を始め、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。

注 – サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーをシャーシから取り外すか、シャーシの背面パネルから AC 電源コードを取り外す必要があります。

注 – 電源ボタンを4秒以上押し続けると、サーバーモジュールの電源がすでにオフになっている場合も、サーバーモジュール内のサブシステム (サービスプロセッサ以外) の電源がオフになります。

サーバーモジュールの電源がすでにオフになっているときに電源ボタンを4秒以上押し続けた場合、電源がシステムに少しの間供給されてから再びオフになります。

プラットフォームオペレーティング システムおよびドライバソフトウェア のセットアップ

プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムを設定したり、サポートされている Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。

- プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムを使用する場合は、「[サーバーモジュールの設置および設定](#)」(7 ページ) を参照してください。
- Linux やカスタマイズされた Solaris オペレーティングシステムなど、サポートされているオペレーティングシステムのインストールについての詳細は『Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』(820-2413) を参照してください。

- サポートされている Windows のオペレーティングシステムと、必要なドライバのインストールについての詳細は、『Sun Blade X6250 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2418) を参照してください。
- このサーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって』(820-2423) を参照してください。

RAID の設定

RAID Expansion Module (REM) がインストールされているときは、SATA ドライブまたは SAS ドライブのいずれかをディスクスロット 0 ~ 3 にインストールできます。これらのディスクは RAID 0、1、5、または 10 として設定できます。『*Adaptec Storage Manager User's Guide for Internal RAID Storage* (内蔵 RAID ストレージ用 Adaptec Storage Manager ユーザーズガイド)』(875-4187) および『*Adaptec Command Line Utility for Internal RAID Storage User's Guide* (内蔵 RAID ストレージ用 Adaptec コマンドラインユーティリティユーザーズガイド)』(875-4188) を参照してください。

サーバーモジュールの設置および設定

この章では、サーバーモジュールの設置と設定について説明します。次の項目について説明します。

- 「サーバーモジュールの挿入」(7 ページ)
- 「Embedded LOM へのアクセスと設定」(9 ページ)
- 「システムの電源投入およびプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定」(15 ページ)

サーバーモジュールの挿入



注意 – コンポーネントを取り扱う前に、静電気放電 (ESD) 用リストストラップでシャーシの地金に触れてください。シャーシの前面と背面の両方に接地された場所があります。システムのプリント回路基板とハードディスクドライブには、静電気に非常に敏感なコンポーネントが含まれています。

▼ サーバーモジュールを挿入する

1. シャーシに挿入するスロットを確認します。
2. フィラーパネルを取り外します。
レバーを引き出して、フィラーパネルを取り出します。
フィラーパネルは廃棄しないでください。

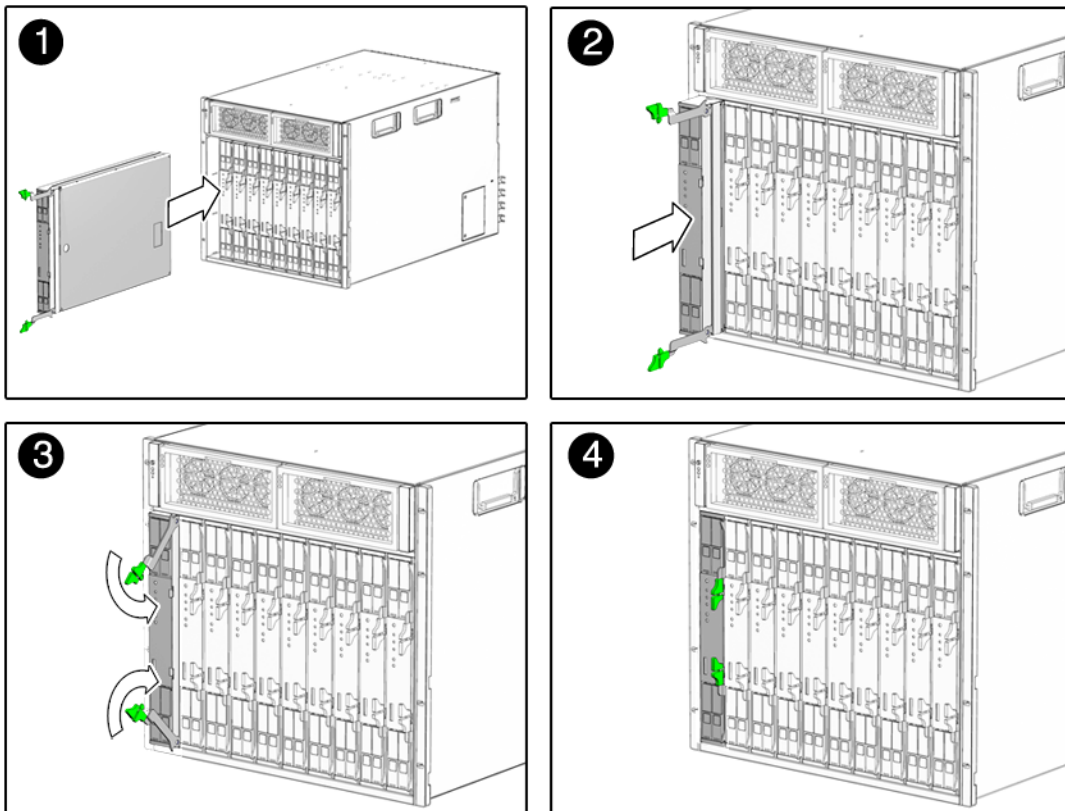


注意 – スロットが空のままシステムを動作させないでください。空のスロットには必ずフィルターパネルを挿入して、モジュールのシャットダウンを防止してください。

3. エジェクタが右側になるように、サーバーモジュールを縦にします。

次の図に、Sun Blade 6000 モジュラーシステムにサーバーモジュールを挿入する手順を示します。使用するシャーシによっては、図と異なる場合があります。図 2-1 の 1 番を参照してください。

図 2-1 サーバーモジュールをシャーシに挿入する



4. ストッパに当たるまで、サーバーモジュールをスロットに押し込みます。

図 2-1 の 2 番を参照してください。

5. 上の方の取り外しレバーがカチッとはまるまで、下方に回します。

サーバーモジュールとシャーシが面一にそろえられ、エジクタがロックされます。図 2-1 の 3 番と 4 番を参照してください。

シャーシの電源が入っている場合、サーバーモジュールがスタンバイ電源モードで起動します。前面パネルの緑の OK LED が点滅し、青の取り外し OK LED は点灯したままです。図 1-1 を参照してください。

Embedded LOM へのアクセスと設定

サーバーモジュールには Embedded Lights Out Manager (Embedded LOM) が含まれています。これは、マザーボードに埋め込まれたサービスプロセッサ (SP) 上で実行される IPMI 2.0 対応のソフトウェアです。この内蔵システム管理ソフトウェアによって、シャーシとサーバーモジュールにインストールされたコンポーネントを監視および管理できます。Embedded LOM により、ネットワーク情報の設定、ハードウェア設定の表示と編集、重要なシステム情報の監視、およびユーザーアカウントの管理を行えます。

シャーシには、Chassis Management Module Integrated Lights Out Manager (CMM ILOM) と呼ばれる独自のサービスプロセッサがあります。このサービスプロセッサを使用して、サーバーモジュールのサービスプロセッサに Ethernet で接続でき、サーバーモジュールのネットワーク情報を表示および設定できます。

以下の手順では次のことを想定しています。

- シャーシの電源がオンになっている
- CMM ILOM がネットワークに接続され、正常に動作している
- インストーラが CMM ILOM と同じサブネットに Ethernet 経由でアクセスできる

これらの条件が整っていない場合は、『*Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide for Sun Blade 6000 Modular System* (Sun Blade 6000 モジュラーシステム用 Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド)』(820-0052)、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Embedded Lights-Out Manager 管理ガイド)』(820-1253)、およびその他のシャーシのドキュメントを参照してください。

注 – CMM ILOM と Embedded LOM は、同じ管理者アカウントが事前設定された状態で出荷されます。ユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

この章の手順では、Embedded LOM が動作可能であり、IP アドレスなどのネットワークパラメータを設定できることを確認します。

- CMM ILOM を使用して Embedded LOM のネットワーク設定を表示します。これによって、Embedded LOM が存在し、動作していることを確認できます。「[Embedded LOM のネットワーク設定の表示](#)」(10 ページ)を参照してください。
- Embedded LOM に接続できることを確認します。「[サーバーモジュールの Embedded LOM への接続](#)」(12 ページ)を参照してください。
- 必要に応じて、CMM ILOM を使用して Embedded LOM の IP アドレスを設定します。「[Embedded LOM のネットワーク設定 \(省略可\)](#)」(14 ページ)を参照してください。

以上の手順を終了すると Embedded LOM が設定され、Ethernet からアクセスできるようになります。

Embedded LOM のネットワーク設定の表示

この手順では、Embedded LOM が正常に動作していて、CMM ILOM を介してアクセスできることを確認します。

Embedded LOM の IP アドレスを表示するには、次の手順に従います。

1. CMM ILOM にログインします。

詳細は、『*Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide for Sun Blade 6000 Modular System* (Sun Blade 6000 モジュラーシステム用 Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド)』(820-0052)を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
show /CH/BLn/SP/network
```

n はサーバーモジュールの番号またはシャーシのスロット ID です。

サーバーモジュールに関する IP アドレスなどの情報が表示されます。次に例を示します。

```
-> show /CH/BL0/SP/network

/CH/BL0/SP/network
Targets:

Properties:
  type = Network Configuration
  commitpending = (Cannot show property)
  ipaddress = IPaddress
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = IPgateway
  ipnetmask = 255.255.252.0
  macaddress = Macaddress
  pendingipaddress = IPaddress
  pendingipdiscovery = dhcp
  pendingipgateway = IPgateway
  pendingipnetmask = 255.255.252.0

Commands:
  cd
  set
  show

->
```

サーバーモジュールの Embedded LOM への接続

Embedded LOM では、コマンドラインインタフェース (CLI) と Web インタフェース (WebGUI) の 2 つのインタフェースを使用できます。

- WebGUI に接続するには、「[Embedded LOM の WebGUI への接続](#)」(13 ページ) の説明に従って Web ブラウザを使用します。
- CLI に接続するには、「[Embedded LOM の CLI への接続](#)」(14 ページ) の説明に従って SSH を使用します。

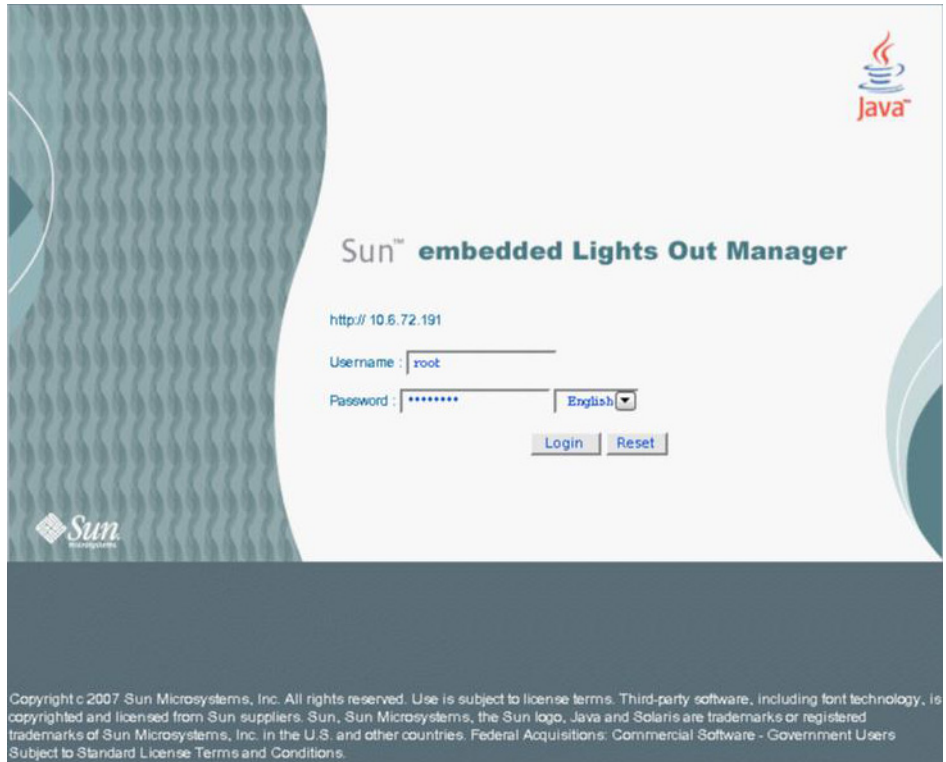
注 – サービスの状態によっては、サーバーモジュールに直接接続された端末から Embedded LOM にアクセスする必要があります。詳細は、『*Sun Blade X6250 Server Module Service Manual* (Sun Blade X6250 サーバーモジュールサービスマニュアル)』(820-1185) を参照してください。

Embedded LOM の WebGUI への接続

WebGUI に接続するには、次の手順に従います。

1. Embedded LOM の IP アドレスを Web ブラウザに入力します。
ログイン画面が表示されます。

図 2-2 WebGUI のログイン画面



2. ユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名とパスワードは次のとおりです。
 - デフォルトのユーザー名: root
 - デフォルトのパスワード: changeme
3. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
WebGUI が表示されます。
4. WebGUI からログアウトするには、「Logout (ログアウト)」ボタンをクリックします。
ログアウト画面が表示されます。

Embedded LOM の CLI への接続

Embedded LOM の CLI に接続するには、次の手順に従います。

1. 端末ウィンドウから次のように入力します。

```
$ ssh root@ipaddress
```

2. プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

注 – デフォルトのユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

ログイン情報とコマンドプロンプトが表示されます。次に例を示します。

```
$ ssh root@122.138.17.17
root@122.138.17.17's password:
Sun Microsystems Embedded Lights Out Manager
Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Hostname: SUNSP00nnnnnnnnnn
IP address: 122.138.17.17
MAC address: nn:nn:nn:nn:nn
Warning: password is set to factory default.
->
```

3. ログアウトするには、「`exit`」と入力します。

Embedded LOM のネットワーク設定 (省略可)

CMM ILOM を使用すると、IP アドレスや DHCP 設定など、サーバーモジュールのネットワーク情報を変更できます。

Embedded LOM のネットワーク情報を設定するには、次の手順に従います。

1. CMM ILOM にログインします。

詳細は、『*Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide for Sun Blade 6000 Modular System* (Sun Blade 6000 モジュラーシステム用 Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド)』(820-0052)を参照してください。

2. `/CH/BLn/SP/network`に移動します。

`n` には、サーバーモジュールの番号 0 ~ 9 に対応した数字 (0 ~ 9) を入力します。

3. 次のコマンドを入力します。

- 静的 Ethernet 接続を指定するには次のように入力します。

```
set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx
set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y
set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz
set pendingipdiscovery=static
set commitpending=true
```

xxx.xxx.xx.xx, yyy.yyy.yyy.y および zzz.zzz.zz.zzz は、それぞれ ILOM およびネットワーク設定で使用される IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。

- 動的 Ethernet 接続を指定するには次のように入力します。

```
set pendingipdiscovery=dhcp
set commitpending=true
```

注 – 「set commitpending=true」と入力すると変更が有効になります。

システムの電源投入およびプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定

サーバーモジュールの電源をはじめてオンにすると、自動インストールプログラムによりコンソールに一連の問い合わせが表示されます。必要な情報を入力すると、システムがブートされ、プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムが設定されます。システムはすぐに使用可能になります。

このセクションでは、システムコンソールへの接続方法、サーバーモジュールの電源をオンにする方法、および自動インストールプログラムからの問い合わせに回答する方法を説明します。この手順はネットワーク上で Embedded LOM を使用して実行できます。

注 – この手順を完了する前に、[付録 A](#) のワークシートを参照し、必要な情報を確認してください。これらの情報は自動インストールプログラムを設定するために必要です。

▼ サーバーモジュールの電源を入れてプリインストールされた Solaris オペレーティングシステムを設定する

1. 「[Embedded LOM の WebGUI への接続](#)」(13 ページ)の説明に従って WebGUI を起動します。
ログイン画面が表示されます。
2. デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名: `root`
パスワード: `changeme`
3. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
「System Information (システム情報)」画面が表示されます。
4. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。
5. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。
画面に複数のダイアログボックスが表示されます。

注 – Firefox および Mozilla Web ブラウザを使用するシステムでは、Java RTE のバージョンが 1.6 以降である必要があります。

Web ブラウザにより埋め込みのリモートコントロールアプリケーションが自動的にダウンロードされ、「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されます。

「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されない場合は、Web ブラウザのセキュリティコントロールによりブロックされている可能性があります。必要に応じてセキュリティのレベルを低くして、リモートコンソールを有効にします。

6. 「Remote Control (リモートコントロール)」-> 「Remote Power Control (リモート電源コントロール)」の順に選択します。
「Power Control (電源コントロール)」画面が表示されます。

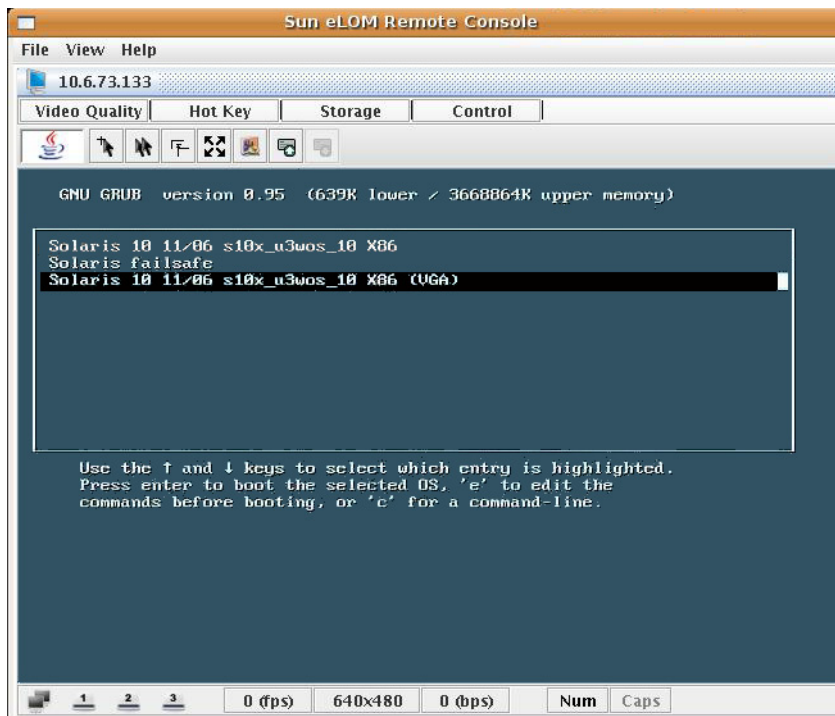
注 – システムの電源は手動でオンにすることもできます。前面パネルにある電源ボタンを、スタイラスなどの非導電性の先のとがったもので押して離します。

7. 「Power On (電源オン)」 ラジオボタンを選択し、次に「Submit (送信)」を選択します。

初期ブートアップメッセージが表示されます。

初期ブートアップメッセージが表示されたあとで、次の画面が表示されます。

図 2-3 オペレーティングシステムの選択



8. 矢印キーで一番下の行にスクロールします。
「Solaris 10 11/06 s10x_u3wos_X86 (VGA)」の行が強調表示されます。
9. Enter キーを押します。
自動インストールプログラムにより一連の問い合わせが表示されます。
10. 付録 A の情報を参照して、問い合わせに対して応答を入力します。
自動インストールプログラムからの最後の問い合わせに回答すると、警告メッセージが表示されてシステムがリブートします。
これで設置作業は完了です。

インストールのためのワークシート

表 A-1 のワークシートを使用して、プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定に必要な情報を収集します。収集するのは使用しているシステムのアプリケーションに該当する情報だけで十分です。

表 A-1 インストールのためのワークシート

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)	
言語	使用する言語をリストから選択します。	英語*	
地域	サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。		
端末	使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。		
ネットワーク接続	システムはネットワークに接続されていますか?	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークに接続されている • ネットワークに接続されていない* 	
DHCP	ネットワークインタフェースの設定に DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用できますか?	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ* 	
DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを入力します。	IP アドレス	DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。 例: 129.200.9.1	
	サブネット	DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか? システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例: 255.255.0.0	255.255.0.0*
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にしますか?	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ*
ホスト名	システムに指定したホスト名		
Kerberos	このマシンで Kerberos セキュリティを設定しますか? 設定する場合、次の情報を収集してください。 デフォルト Realm: 管理サーバー: 第 1 KDC: (省略可) その他の KDC:	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ* 	

表 A-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)	
ネームサービス	ネームサービス	該当する場合は、このシステムで使うネームサービスを <input type="checkbox"/> を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> • NIS+ • NIS • DNS • LDAP • なし*
	ドメインネーム	システムが含まれているドメインの名前を入力します。	
	NIS+ と NIS	自分でネームサーバーを指定しますか、またはインストールプログラムによって自動的に指定しますか?	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • 自動的に指定*
	DNS	DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は入力する必要があります (最高 3 個)。	
		DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。	
		検索ドメイン:	
		検索ドメイン:	
		検索ドメイン:	
	LDAP	LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。 プロファイル名:	
		プロファイルサーバー:	
		LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合は、次の情報を収集します。	
		プロキシバインド識別名:	
		プロキシバインドパスワード:	

表 A-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)
デフォルトルート	<p>デフォルトルート IP アドレスを手動で指定しますか、またはインストールプログラムによって自動的に指定しますか?</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分で IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのレポート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。 • インストールプログラムを使用して IP アドレスを検出できます。ただしその場合は、システムがルータのあるサブネット上にあり、そのルータが ICMP ルータディスカバリプロトコルを使用して公開されている必要があります。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムのブート時に IP アドレスが自動的に検出されます。 • この時点でルータを使用していないか、ソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「なし」を選択することもできます。ソフトウェアは、レポート時に IP アドレスを自動的に検出します。 	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • IP アドレスを検出 • なし*
時差	デフォルトの時差を指定する方法を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • 地域* • GMT からのオフセット • 時差ファイル
ルートパスワード	システム用のルートパスワードを選択します。	

索引

C

- CMM ILOM 14
- CMM ILOM によるネットワークの設定 14

E

- Embedded LOM
 - WebGUI 12
 - コマンドラインインタフェース 12
 - 接続 12
 - 定義 1
 - デフォルトのユーザー名とパスワード 14
 - ブラウザ 12
 - ログイン 14
- Embedded LOM への接続 12

R

- RAID
 - Expansion Module (REM) 6
 - 設定 6
- root パスワード
 - デフォルト 9, 14

あ

- オペレーティングシステム
 - linux 5
 - Windows 5
 - その他 5
 - プリインストールされた Solaris 5

か

- 概要、設置 2
- 緊急シャットダウン 5

さ

- サーバーモジュール
 - 設置 7
 - 前面パネル 4
 - 挿入 7
 - 定義 1
- サービスプロセッサ 1
- 自動インストールプログラム 15, 17
- シャーシ、定義 1
- シャットダウン
 - 緊急 5
 - 適切な順序での 5
- スタイラス
 - 電源切断用 5
 - 電源投入用 3
- スタンバイ電源、適用 3
- 製品アップデート vii
- 設置の概要 2

た

適切な順序でのシャットダウン 5

電源

Embedded LOM による電源投入 17

スタンバイ電源の投入 3

電源切断 5

電源投入 3

電源のシャットダウン 5

問い合わせ 17

ドライバアップデート vii

は

パスワード

root 9, 14

デフォルト 9, 14

ファームウェアアップデート vii

プリインストールされた Solaris オペレーティング

システムからの問い合わせ用ワークシート 19

や

用語の定義 1

ら

リダイレクト、起動 16

リダイレクトの起動 16

リモートコンソール

起動 16

問題 16

ログイン

Embedded LOM 14